



## プロローグ

いしづもりゅう  
石錠立螺之会によるお祝いの席で行う「本尊礼拝事」の法螺貝吹鳴、樹齢900年の大楠の樹根を活用し、平成13年の愛子内親王殿下ご生誕を記念して制作された樹根太鼓を中心とした津島太鼓集団「雅」による勇壮な太鼓演奏で始まった歓迎アトラクション。東予・南予のサテライト会場で行われた育樹活動の生中継に続き、25日(土)に行われた皇太子殿下の「お手入れ」の映像が放映されました。琴の演奏、なぎなた演武、愛媛の誇るテノール歌手・秋川雅史さんによる大会イメージソング「愛媛の歌」が披露され、会場は開会に向けて期待を募らせました。



## 皇太子殿下式典会場御入場

参加者の歓迎の中、加戸守行愛媛県知事のご先導で  
皇太子殿下が式典会場にご入場になりました。



## 開会のことば

第32回全国育樹祭の開会が宣言されました。



国土緑化推進機構副理事長  
谷 福丸

## 三旗入場

伊予市立郡中小学校「鼓隊」の先導で、鴨部小学校緑の少年団(今治市)、日高緑の少年団(今治市)、日吉小学校みどりの少年団(鬼北町)の保持により、国旗・国土緑化推進機構旗、愛媛県旗が入場しました。



第32回全国育樹祭記念ファンファーレ「Ripple on Forest(森の上の波紋)」 作曲:井上 洋一



## 緑の少年団入場・三旗掲揚

緑の少年団が入場し、国歌斉唱のうちに国旗・国土緑化推進機構旗・愛媛県旗が掲揚されました。



## 主催者あいさつ



第32回全国育樹祭大会会長  
参議院議長

江田 五月

本日ここに、皇太子殿下のご臨席を仰ぎ、第32回全国育樹祭を開催することができました。関係の皆さんの大きなお力添えに、心から感謝を申し上げます。

今年の開催県である愛媛県は、白砂青松の島々が点在する瀬戸内海や豊後水道に囲まれるとともに、西日本最高峰の石鎚山を頂いた、自然の豊かなところです。この地の土と雨水は青々とした木々をはぐくみ、良質な木材を生み出してきました。今回の育樹祭の式典が、樹齢200年を超える木材で築かれたこの会場で開かれることは、大変象徴的で意義深く感じます。

森林は、国土を災害から守るとともに、おいしい水やきれいな空気など、私たちにさまざまな恵みを与えてくれます。今日ではさらに、地球温暖化防止に果たす役割も注目されています。森林の緑が人々の気持ちをリフレッシュしてくれる効果も、見逃さないでしょう。

ところが今日、乱伐や開発、地球温暖化の進行などにより、森林は絶えず危機にさらされています。やはり、人々が意識して森林づくり

を進めていかなければ、森林の保護・育成はままなりません。こうした中、森林ボランティア等の活動が各地に広がっていることは大変心強いことですし、これまで縁のなかった方にとっても、毎年の育樹祭が、土と緑の楽しさと大切さを知っていただくきっかけになることを祈っています。今年もまた、愛媛県から全国へ、さらに未来へと、緑を愛する心が広がっていくことでしょう。

結びに、本日栄えある表彰を受けられる皆さまの、長年にわたるご努力とご功績に心から敬意を表し、ご列席の皆さまには、緑豊かな国土づくりに一層のご支援を賜りますようお願いして、ごあいさつといたします。

## 主催者あいさつ



愛媛県知事

### 加戸 守行

皇太子殿下の御臨席を仰ぎ、全国から多数の皆様を御参加をいただきまして、第32回全国育樹祭が、ここ愛媛県武道館において開催できますことは、私たち愛媛県民にとりまして誠に光栄であり、この上ない喜びであります。

また、本日、多年にわたる御功績により、表彰を受けられます方々には、深く敬意を表しますとともに、心からお祝いを申し上げます。

本大会のイメージソング「愛媛の歌」に、「海がある山がある」、そして「ゆたかな自然があふれる」とありますように、愛媛県は、瀬戸内しまなみ海道の沿線をはじめ、数多くの島々が点在する瀬戸内海や、リアス式海岸の宇和海、西日本最高峰の石鎚山を主峰とする四国山地など、豊かで美しい自然に恵まれております。

とりわけ、森林は県土の約7割を占めており、本県では、平成13年を「森林共生元年」と位置づけ、森林の持つ公益的機能の重要性を再認識するとともに、森林を県民共有の財産として、次の世代へと引き継ぐため、“森をつくる”、“森とくらす”、“木をつかう”という3つの視点で、県民参加による「森林環境の保全」と

「森林と共生する文化の創造」を積極的に推進しているところであります。

今回は、大会史上初めて、屋内施設での開催となっておりますが、会場であるこの愛媛県武道館は、徹底した木造・木質化を図り、県産材をふんだんに利用して、平成15年に開館しました日本最大級の規模を誇る武道館でありまして、まさに県民と森林が共生し、文化を創造するという本県の取り組みの象徴となっております。

本大会を機に、大会テーマである「育てよう 緑あふれる 日本の未来」の実現を目指して、未来に向けた森づくりの活動が、愛媛の地から、全国各地に大きく広がっていくことを心から願っております。

終わりに、本大会の開催に御尽力をいただきました関係者の方々、並びに開催準備にボランティアとして御協力いただきました多くの県民の皆様へ心からお礼を申し上げまして、私のあいさつといたします。

## 歓迎のことば



愛媛県議会議長

### 清家 俊蔵

本日ここに、皇太子殿下の御臨席を仰ぎ、第32回全国育樹祭が、盛大に開催されますことは、誠に光栄であり、この上ない喜びであります。

また、全国各地からここ愛媛の地に御来県いただきました皆様方、ようこそお越しくださいました。心から歓迎申し上げます。

御承知のとおり、我々日本人は、古来、豊かな森林の恵みを受けながら伝統文化をはぐくみ、発展を遂げてまいりました。森林は人々の心身を癒し、豊かな生活を支えてくれます。また、災害から我々を守るとともに、二酸化炭素の吸収源として地球温暖化を防止するなど、森林の果たす役割は、多岐にわたっております。

しかしながら、近年、森林を取り巻く環境は大きく変化し、森林を保護育成するという伝統的美風、また、公益的性格を持つ森林への認識が薄れ、荒廃の一途をたどろうとしているのは誠に憂慮すべきことであります。

この育樹祭を契機に、私たち一人ひとりが自らの手で森林を守り、育てていくとの決意を新たにするとともに、この機運が日本全

体に広がり、次の世代へと引き継がれますことを、願ってやみません。

終わりに、この祭典が豊かな未来の創造のための新たな礎いしとなりますよう、心から祈念申し上げまして、歓迎のことばといたします。

## 皇太子殿下のおことば

第32回全国育樹祭が、全国各地から多くの参加者を迎え、ここ愛媛県武道館において開催されることを喜ばしく思います。

本年は、昭和41年にこの地で行われた第17回植樹行事並びに国土緑化大会から数えて42年目に当たりますが、当時、多くの人々の手で植えられた苗木が、立派に育ち、久谷ふれあい林<sup>くたに</sup>となって、県民の皆さんに守り育てられていると伺い、喜ばしく思います。

昨日、私は、昭和天皇と香淳皇后がお手植えになりました杉の手入れを行い、杉が40数年の歳月の間に、力強く成長し立派な森を作っている姿に感概を覚えるとともに、樹木は、苗木から長年にわたり愛情を持って守り育てていくことが必要であることを強く感じました。

ここ愛媛県は、面積の7割が森林と伺っており、美しく、緑豊かな自然に恵まれています。このすばらしい自然は、長年にわたり、守り育ててこられた林業関係者を始めとする県民の皆さんのたゆみない努力<sup>なまもの</sup>の賜物<sup>たまもの</sup>であると思います。

森林は、美しく豊かな国づくりの基礎であり、国土の保全、水源の涵養<sup>かんよう</sup>を始め、私たちに限りない恩恵を与えてくれます。今日、地球温暖化防止など地球環境の保全が人類共通の喫緊の課題であり、森林の果たす役割が重視されております。

こうした森林の大切さを思うとき、緑を守り育て、そしてそれをはぐくんできた技術や文化を次の世代にしっかりと引き継いでいくことは、私たちに課せられた大きな役割と考えます。

このような中で、本日表彰を受けられる方々を始め、日ごろから各地域において国土の緑化に尽力されている全国の皆さんに敬意を表するとともに、そうした活動が更に多くの人々により支えられ、発展していくことを期待します。

終わりに、この度の大会テーマ「育てよう 緑あふれる 日本の未来」にふさわしく、森林を守り育てる活動の輪が全国に広がり、緑あふれる豊かな自然が未来へと引き継がれていくことを願い、私のあいさつといたします。

